

2018 JUA/AUA Resident Program 参加報告

茂 田 啓 介 (慶應義塾大)

この度、第113回米国泌尿器科学会 (American Urological Association Annual Conference ; AUA) に参加させていただきましたので、全体の雰囲気や様子について報告させていただきます。2018年のAUAは、5月18～21日に、米国カリフォルニア州のサンフランシスコで開催されました。私自身は今回で3回目の参加となりますが、今年はJUA/AUA Resident programに応募し、運よくご選出いただいた経緯もあり、サンフランシスコには開催日前日から1週間も滞在でき、今までで最も濃厚な学会になったと感じています。

サンフランシスコの中心部である Union Square は、綺麗な街並みと海の水平線のコントラストが美しい、西海岸を代表するリゾート地のように思えました。当学会よりご用意いただいた Hilton Financial District San Francisco Downtown Hotel で6日間を過ごしました。学会初日に、会場である Moscone Convention Center (写真1) に registration しに向かうと、会場が半分工事中であり、会場が本部、Moscone North, West に分かれていたため、各セッションに足を運ぶのが大変でした。そのまま午前には局所進行性前立腺癌のセッションを聴講後、午後には上部尿路上皮癌のセッションでの発表を行いました。私は『腎盂尿管癌患者における Weibull モデルを使用した腎尿管全摘除術施行後の術後フォローアップモデルの構築』という題名で発表し、たくさんのご質問もいただき、活発な議論を交わすことができました (写真2)。

学会2日目の土曜日には Residents Bowl と呼ばれる大会に参加させていただきました。この大会は、毎年米国全土におけるレジデントが各ブロックに分かれてチーム編成し、知識を競い合う由緒ある大会のようでした。私は名古屋市立大学の海野怜先生と満を持して挑みましたが、残念ながら予選で敗退しました。一方で、米国のレジデントの先生と話す機会を得ることができたのは非常に貴重で、今後大きな財産になるかと考えています。さらに日曜日には President reception が開催され、Exchange Program 生の先生ならびに JUA/AUA の各教授の先生方が一同に会し、会食を楽しみました (写真3)。

全体を通して、1週間のスケジュールが比較的タイトであり上記のイベントの合間を縫って Plenary Session, 上部尿路上皮癌の Educational Session, Science & Technology Hall での新規商品紹介などを聴講させていただきました。毎年思うことですが、年を経るごとに新規治療、新規医療機器がどんどん出現するため、知識に遅れをとらないためにも継続的な参加が大切と感じました。本学会は米国で最も大きな学会ということもあり、最新



写真1 AUA 会場となった Moscone Convention Center



写真2 上部尿路上皮癌の Moderate Poster Session での発表



写真3 AUA President Reception の様子

の知識を得るという意味ではこれほど刺激を受ける学会も少ないかと思えます。自分自身、さらなる自己研鑽が必要であることを再度認識させていただきました。

最後になりますが、本交換プログラムにご推薦いただきました当教室の大家教授をはじめ、このような機会を与えてくださった国際委員会 委員長 富田善彦先生、

泌尿器科学会事務局様にこの場をお借りして深謝申し上げます。今後も1人でも多くの若手泌尿器科医がAUA交換プログラムに積極的に参加し、刺激を受けて日本に戻り本学会で得た知識や技術をいち早く還元できることを心から祈っております。